

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集

第28回全国公民館研究集会第7分科会「環境教育」 学校と地域を結んだ「子ども環境会議」

4.5

- 2 トピックス 第28回全国公民館研究集会開催
- 3 視点 大野小学校・大野地区の自慢（教育目標の共有で子どもを育てる）
- 3 ひろば 未来を照らす子ども達
- 6 実践記録シリーズ 地域づくりと公民館 ～まちづくりワークショップを開催して～
- 7 サークル交流 レクリエーションクラブ「しん」（新潟市）／筆で文字を楽しむ教室（栃尾市）
- 7 素顔拝見 川上 隆幸さん（新潟市）／松永 裕さん（出雲崎町）



「妻入り街並ギャラリー」
出雲崎町

表紙解説 10月8日から10日まで開催された妻入り街並ギャラリーです。東京芸術大学院生の作品を町内12会場に展示しました。



第28回全国公民館研究集会開催

『新世紀、こころ豊かなまち・人づくり』

『「元気」と「安心」・「生きる力」をはぐくむ公民館の運動』



第1分科会討議



松下会長あいさつ

去る10月13日(木)～14日(金)の二日間にわたり、阪神淡路大震災から10年の節目を迎えた神戸市の兵庫県立文化体育館を主会場に、1,700人の参加を得て、第28回全国公民館研究集会が開催された。今回の研究テーマは、『新世紀、こころ豊かなまち・人づくり』～『「元気」と「安心」・「生きる力」をはぐくむ公民館の創造』で、大会初日は10の分科会に分かれて終日熱心な討議が展開された。

本県からは新潟市東地区公民館の吉田アケミ主任が、第7分科会「環境教育」(第4・5面特集欄参照)の分野において、地域の通船用をめぐる「子ども環境会議」について実践発表を行った。

本県からの参加者は第1分科会に参加したが、「生涯学習社会」の中の公民館の管理運

営と責務」を課題の一つとした分科会には分科会最多の350人の参加があり、公民館運営が喫緊の課題となっている現状が浮き彫りにされた。

第二日目の全体会では、全国公民館連合会の松下会長の挨拶に続いて、文部科学省、兵庫県知事の祝辞そして、神戸市教育長の歓迎のあいさつ、のあと、集会アピール(別掲)が満場一致で承認された。

続いて、文部科学省、生涯学習政策局三浦社会教育課長が文部科学

省の政策説明を行った。詳しくは10、11月の「月刊公民館」に掲載されている。

今年の記念講演はヨットマンの堀江謙一さんで、過去の単独航海の経歴を述べるとともに新たな航海への挑戦を誓っていた。

来年は11月1、2日と仙台市で開催される。テーマは「どうなる公民館」新しい役割を求めよう、今年に比べて6分科会と少ないものの、テーマには、初めて指定管理者制度や2007年問題が取り入れられる。

(会長 三保恵美子 記)

第28回全国公民館研究集会アピール

全国各地で、行財政改革や市町村合併が進められている中、公民館はいま、統廃合、職員削減、指定管理者制度導入等の問題で、大きな岐路に立たされています。

このような厳しい状況の中で、社会教育の中核施設である公民館の果たす役割・機能が低下することは、地域の教育力の向上や明るく活力ある地域社会を構築しようとする時代の流れに逆行することにつながります。

そこで、一堂に会した私たちは、新しい生涯学習社会の形成や明るく住みよい地域づくりにさらに推進するため、一人一人が公民館の振興・充実に今後一層努力することを誓い合うとともに、大会参加者の総意をもって、下記の事項についてアピールいたします。

記

- 公民館関係職員は、発想の転換を図り地域のニーズを受け止め、地域に貢献できる公民館活動に取り組む。
 - 「公民館の設置及び運営に関する基準」の趣旨を踏まえ、必要課題を的確に把握すると共に、地域のニーズを受け止めた事業の企画・実施・評価に努めます。
 - 有益な学習情報等の提供や、利用者の学習相談に積極的に取り組みます。
 - 自らの職責を強く自覚し、公民館職員としての力量の向上を目指して、研修に努めます。
- 都道府県公民館連合会関係者は、英知を結集し、協力し合い、積極的な組織活動を展開する。
 - 公民館の現状と課題を的確に把握し、その解決に向けて力を合わせます。
 - 市長会、町村会、公民館振興市町村長連盟と密接な連携を図りながら、公民館の充実に努めます。
 - 各種手引き、研修資料等の発行や研修会及び研究集会の充実に努めます。
- 全国公民館連合会は、全国の情報収集に努め、有益かつ必要な情報提供を実施し、研修機会や広報活動の充実に努む。
 - 21世紀の公民館活動のあるべき姿について、調査・研究すると共に、全国的な公民館活動の成果を共有するために、情報提供や広報活動を充実させ、必要に応じて指導・助言を行います。
 - 都道府県公連の自立型財政確立のための支援に努めます。
 - 国並みに都道府県、関係機関と密接な連携を図り、公民館活動の振興に努めます。
 - 公民館関係職員がお互いに啓発し合い、高め合う全国的な研修機会の充実に努めます。

平成17年10月14日
第28回全国公民館研究集会

平成17年度 第2回「月刊公民館」編集委員会開催

内容骨子

- 日時 平成17年10月21日(金) 午後2時～4時
- 場所 全国公民館連合会 会議室
- 協議事項
 - ・既刊の評価について(11月号は内容充実していた)
 - ・平成18年度の編集方針について(次回行方)
 - ・2月号以降の特集テーマ、執筆者の選定等について(紙面の都合で省略)
 - ・第3回編集委員会の日程について(2月中旬に)
 - ・その他

視点

大野小学校・大野地区の自慢 (教育目標の共有で子どもを育てる)

系魚川市立大野小学校長 桐山 路子



「ひとり」で「自立」 みんなが学校、公民館、地区の関係機関等と共有している教育目標である。

社会が多様に変化するにつれ、学校・家庭・地域の連携が叫ばれているが、ここ大野小学校(児童数百五名)は、百三十二年間、一村一校が続き、「子どもは地域の宝」として共有する学社融合が進んでいる。

地域・家庭の教育力は、教科・道徳・総合学習等でのゲストティーチャーが三百四十五名、学校支援者百八十二名、

また、四十にも及ぶ公民館事業の中で、子ども達が関わる活動が二十近くもあり、そこに学校もPTAも関わって目標の具現に努めている。中でも特筆なのは、二十年以上続いている青少年協のキャンプだ。四、五、六年生に中学生、四年生の保護者が参加し、青少年協の方々から学んでいる。学社融合が図られているこの大野小学校、大野地区は、自慢できる。

掲示板

平成17年度 下越地区公民館関係役員等研修会開催

とき 平成17年9月29日(木)・30日(金) ところ 秋津温泉 両津やまきホテル



136名参加

研修会プログラム

- 第1日目(9月29日)
- 開会式 (13:30~14:00)
 - 開会あいさつ 下越地区公民館連絡協議会長 三保恵美子
 - 来賓祝辞 下越教育事務所佐渡出張所長 山田又一郎 様
 - 歓迎のことば 佐渡市長 高野宏一郎 様
 - 分科会 (14:10~17:30)
 - 第1分科会 「これからの公民館運営」
 - 第2分科会 「家庭教育と公民館」
 - 第3分科会 「学校・地域を結ぶ公民館」
 - 第4分科会 「公民館初任者研修」
 - 情報交換会 (18:30~20:00)
- 第2日目(9月30日)
- 分科会報告並びに講評 (9:00~10:00) (敬称略)
 - 第1分科会 中山昌吉 (新潟市西地区公民館)
 - 第2分科会 斎藤洋美 (阿賀町公民館)
 - 第3分科会 田瀬信行 (分水町中央公民館)
 - 第4分科会 佐藤充春 (佐渡市知野地区公民館)
 講評 下越教育事務所社会教育課長 佐藤強平 様
 - 記念講演会 (10:00~11:30)
 演題 「地域活性化への一視点」 新潟の未来プロジェクトの軌跡
 講師 ジャーナリスト 加藤 広文 様
 - 閉会式 (11:30~11:45)
 - 次期開催地区代表あいさつ 新潟市中央公民館長 三保恵美子
 - 閉会あいさつ 佐渡市公民館長 伊藤 博

未来を照らす子ども達

ひろば

新発田市公民館運営審議会 委員 遠藤 幸夫

動させられました。

教育現場や様々な組織体では、教育のあり方を議論し検討をされていると思います。そして現在の子ども達を悲観的にとらえがちだと思えます。しかし、子ども達の「今」を考えると、思い起こすことがあります。

私は接骨院を営んでいます。捻挫の治療に来院した女子中学生が、闘志と書かれたハチマキを大事にしています。治療を終え時間も遅くなったのに部活に戻るといので、軽食を用意し勤めると断固として食べないのです。

最後に、その子ども達は女子バスケットボール部として本年新潟県大会優勝という栄冠に輝いたのです。

「今チームメイトが練習中なので食べることはできません」とハチマキを押さえながら言っています。その時にハチマキを外さなかった意味が分かり、本当に感



第7分科会「環境教育」 「子ども環境会議」

「栗ノ木川ルネッサンスプロジェクト 2004」

《ねらい》

- ・日頃学校に行く機会のない地域住民に聞いてもらう。
- ・発表する子どもたちにとってもいい経験になる。
- ・大人と子どもによるパネルディスカッション
子どもたち、地域住民代表、コーディネーター、参加者

《ねらい》

- 子どもと地域住民の川に関する意見交換の場を設けて、みんなで川の環境を考え、どうすればよくなるのか話し合う。
- ・専門家による話し合いの総評

【Ⅲ 評価と成果】

当日は、関係各方面の担当や地域住民50人くらいが参加した。各学校の発表は、どれもが興味深い内容で、参加者にも理解しやすく好評であった。子どもたちの態度も堂々としていた。パネルディスカッションでは、どうすれば川がきれいになるのか意見交換の場で、大人と子どもの間に思いがけない一体感が生じ、参加者から深い満足感が得られた。子どもの発表は、どんな立派な講師から話してもらうより効果があったと思われる。以下、参加者が書いた感想の一部である。

- 各学校のすばらしい活動発表だった。この会議が地域及び学校への広がり期待し、応援したいと思います。
- 突然の質問にも堂々と答えていた子どもたちが立派だった。
- 大人が責任を持って実行し、子どもの模範にな

るよう努力が必要だ。

- 各校ともすごい！この活動が大人を動かし、少しずつ目的を達せられることと思った。

また、参加した子どもたちからも、「他校の発表の様子が見られて刺激になった。」「発表の仕方等勉強になった。」等の感想が寄せられた。

今回の事業は、「地域の環境を自分たちの手で良くして行こう」という学校と地域の連帯感を深める一翼を担ったものと思われる。

【Ⅳ 今後の課題】

2年目を迎える今年度だが、すでに2回会議を開催している。今回は、昨年関わった教諭がオブザーバーとして出席しているので、現段階では順調に進んでいる。今後、以下のことが問題になると思われる。

- (1)担当する教諭によっては、この事業に対して温度差が生じる可能性がある。

学校現場は、とにかく忙しい。その中で何回か会議を開き、授業を発表会に向けて進めていくのは大変な作業だと思う。公民館からも、学校側に積極的に学習支援をしていく必要がある。

- (2)身近なテーマを扱っているとはいえ、参加者は年代的に限られていた。

環境教育が重要かつ身近な問題であることを、関心のない住民にどうアピールしていくか、内容を含めて考えて行く必要がある。

- ・地域に根ざした公民館の力量が問われている。



特集

第28回全国公民館研究集会 学校と地域を結んだ

新潟県新潟市東地区公民館

主任 よしだ 吉田 あけみ 明美



【I はじめに】

(1)新潟市の概要

新潟市は、面積571.67平方km、人口約77万6千人を有する新潟県の県庁所在地である。広大な越後平野の一角に位置し、日本一長い信濃川が流れ込む水の都として発展して来た。今年の3月に周辺の12市町村を合併し、更に2年後の政令指定都市を目ざして地域住民や関係機関等と話し合いを進めている。

(2)新潟市公民館の実態

新潟市には、現在中央公民館と22の地区公民館があり、それぞれの地域で独自の事業を展開している。また、自主サークルの活動も活発で、平成15年度の実績が約3,000団体、延べ利用回数51,248回で、その充実ぶりが窺われる。公民館は、まさに子どもから高齢者までの学習の場として利用されている。

(3)子ども環境会議開催のきっかけ

東地区には、通船川・栗ノ木川という二つの川が流れている。しかし、両川とも住民には身近な存在にも関わらず、「汚い！臭い！危険な川」と言われ、無関心な川になっていた。その現状を憂えた一部の市民が公民館に協力を依頼して、通船川の環境を考える環境セミナー事業が開催された。事業は、毎年形を変えて実施され、少しずつ周辺の住民に認知されるようになった。その流れは、平成14年度から開始した小学校の総合学習の中にも受け継がれ、通船川や栗ノ木川に関する環境学習で取り上げられるようになった。

児童が学習のために出かける時のサポート役として多くの地域住民が関わり、ますます川に対する認識が深まって来た。

そこで、公民館を会場にして、子どもたちの学習成果を発表してもらい、それを聞くことによって、市民に自分たちの住んでいる地区の川にもっと関心を持ってもらう機会にしたいと考えた。

【II 活動の内容】

事業を進めるに当たっては、学校の協力が不可欠だった。学校長を通じて、3校の環境学習の担当教諭に会議に出席してもらい、当日に向けて内容や進行方法等を議論した。それと同時に学校での授業にも協力した。総合学習には現地での調査が欠かせない。そんな時に行政や地域住民に協力が依頼され、サポート役として学校の授業を支援した。

子どもたちは、自分の目で調査をすることにより通船川の実態を知り、川の汚染の深刻さに驚いていた。その原因を自分たちなりに考え、どうすればよくなるのか話し合った。授業を通して、毎日そばを通りながらも、全く視野に入っていなかった川が身近に感じられたようだった。

公民館では「子ども環境会議」の日程を協議、各学校の授業が終了する12月3日午後の開催とし、館内の利用団体や関係自治会に周知して、聴衆の確保に努めた。

子ども環境会議「身近な環境を考える」の具体的な開催内容は、以下の通りである。

・小学校3校の環境学習成果の発表(各校20分)

「レッツ トライ エコアクション！」

「通船川プロジェクト」

実践記録 シリーズ 92

第56回新潟県公民館大会 事例発表3

地域づくりと公民館 ～まちづくりワークショップを開催して～ 新発田市加治川地区公民館 主 事 吉田 雅則

【まちづくりワークショップ】

今回紹介する事業は、合併前の平成14年3月から1年間かけて実施した事業です。

●建設課との協働

公民館では、市町村合併を前にして大人を対象とした「地域学」に取り組むたいと考えていました。少ない予算でどのように事業展開をしようかと悩んでいたところ、建設課から「住民参加による農村振興計画作り」に取り組むことになり、予算はあるがどのように取り組めばよいかという相談があり、住民主導型の地域づくりをしたいという目的が共通していたため、建設課と公民館が一緒になり、合併前に加治川地域の良さ・個性を見つけ、そして未来像(＝農村振興計画)を住民と一緒に考える講座を行うことになりました。しかし、職員だけではプロセスデザインが揃わず、以前まちづくりコーディネーター養成講座でお世話になった藤吉さん(つなぎや)を訪ね、清水義晴さん(えにし屋)を紹介いただき、指導を受けながらトータルプロセスデザインを作成し、建設課と公民館、そして住民と行政の協働作業が始まりました。

【トータルプロセスデザインワークシート】

テーマ	行政と一緒に加治川村を考える
テーマ設定の経緯	行政主導型によるまちづくりのいきづまり
目的	合併前に住民参加型の地域づくりの楽しさ、大切さを知ってもらいたい。 村を愛する人を見つけ出したい。 物だけでなく加治川村独自の宝ものを見つめたい。 未来国を農村振興整備事業につなげたい。
●軸デザイン	(契約条件) ・合併の流れを変えるような場にならない。 (参加の場の具体的な目的) ・合併前に住民参加型の地域づくりの大切さを知る (成果) ・広報誌を使って住民へ周知する。 ・農村振興整備事業の提案書を作成する。
●組織デザイン	参加者：住民と役場職員 運営：建設課と公民館職員 コーディネーター：清水義晴さん(えにし屋) 藤 吉さん(つなぎや) 宮崎道名さん(まちづくり学校)
●プロセスデザイン	(前期)～人づくり～ 1. まちづくり講演会 2. 村の宝ものの探し(現状把握) 3. 宝ものをどう活かすか(未来予測) 4. 未来像づくり(未来デザイン) (後期)～計画作成～ 5. 整備事業の説明と現地確認(理念設定) 6. テーマ設定と現状把握 7. 構想づくり 8. 提案書づくり

●まちづくり講演会

住民が主体となって行うまちづくりの大切さを知ってもらい、まちづくりに向け積極的に加治川村を見つめなおす機会となるように、「私たちの宝もの～まちづくりから地域が変わる～」をテーマに、清水義晴さんの講演会を約100人の参加者を得て開催しました。

内容は、清水さんが全国で関わってきた事例を通してのまちづくりの手法、楽しさ、大切さについて講演をいただいた後、村の全国を拡大した地図を会場に貼り、参加者から村の宝ものと思うものを発表し、それを地図に記入していくという方式で行われました。真っ白の用意した地図に記入した宝ものが溢れ、書ききれない位のたくさんの宝ものがあり、自分たちの村の豊かさを実感していました。



宝ものを地図に落とす講演会の様子

最後に、「まちづくりのきっかけは、小さいことから始める。そして楽しんでやる。すると共感する仲間ができ、大きく育っていく。これからのまちづくりは、住民、行政、企業、学校が手を取り合って活動を展開することでいい答えが出る。」という清水さんの話に参加者全員が大きくうなずく姿が印象的でした。

●私たちの宝ものワークショップ

講演会で地図に記入された宝ものほかに、まだ見つけていない宝ものを発見し、それを活かして村の未来デザインをすることを目的に3回のワークショップを開催しました。講演会でまちづくりに興味をもった21名の方が参加してくれました。

【第1回】まちを知る

歴史を中心に「自然・景観」、「人・伝統」、「産業」、「食」をテーマに4つのグループに分かれ、まち歩きと現地調査を行い、現状の宝ものを確認しました。また、村内でこだわりを持って自然保護、農業、伝統、文化等の活動を取り組んでいる人から、そのこだわりを発表してもらいました。その後、まち歩きで見つけたデータや撮影した写真、聞いた話をもとに、それぞれのグループで「加治川村の宝ものマップ」を作成し、発表しました。

【第2回】未来を描こう

参加者が4つのグループに分かれ、前回のワークショップで発見した宝ものをもとに、「未来国」をデザインしました。その後、未来国を発表し、お互いの意見の共有を行いました。

【第3回】自分たちのできること

前回の「未来国」をもとに、「村全体が総合学習の場」、「加治川村の宝 大峰山」、「桜とホテルとコシヒカリ」をテーマに自分のできることを、したいことを考え、実現可能な未来像をグループごとに作成し、発表しました。

●農村振興整備事業ワークショップ

建設課の行う農村振興整備事業で実現するため、私たちの宝ものワークショップで作成した未来国から、具体的なテーマを絞り、構想図さらに村への提案書をもとめることを目的に、ワークショップを引き続き開催しました。地域住民、行政職員のほかに小学校の先生、設計コンサルタントと多種多様な方が参加しました。

【第1回】目的確認と現状の共有

農村振興整備事業の目的を確認し、これまでのワークショップで作成した未来国から、実現可能な「ホテルの里づくり」と「桜でつなぐロードづくり」にテーマを絞り、3グループに分かれ現状の共有を行い、構想図や地図にまとめました。

【第2回】現状把握

第1回で「桜でつなぐロードづくり」をテーマにした区域設定が広すぎたため、「桜ロードづくり」と

「大峰山」の2テーマに分け、3つのテーマで区域を絞った現状把握を行いました。

【参加者の声】

- ▶ホテルの地域は、日本人が見失った豊かな資源が眠っている。四季を通して楽しめる空間を作っていく必要がある。
- ▶大峰山は、開発するより自然環境に留意することを考えていきたい。
- ▶公園を作ることはいつでもできる。自然を作ることとは不可能。自然をそのまま活かしたい。

【第3回】未来像を活かした構想図づくり

前回の現状把握をもとに、3つのテーマに分かれ、可能な未来像を描きました。

【参加者の声】

- ▶ホテルの里は、今ある自然を活かした未来づくりだ。夢でなく実現できそうだと感じた。
- ▶話を聴き、話すほど夢が広がっていくことがわかった。

【第4回】これまでの成果「提案書」をつくらう

現状図、構想図をもとに、「提案書の発行」、「現状」、「提案内容と注意点」、「期待される効果」をそれぞれ仮造紙にまとめました。

【参加者の声】

- ▶みんなで話し合っているとこんなに素晴らしいことがあった。
- ▶今まで話し合ってきた人たちとの出会いが、今後も続きそう。
- ▶実現可能な限り頑張りたい。住民の方が第一！

●ワークショップのその後

農村振興整備事業ワークショップで出来上がった「提案書」は、建設課で採否を話し、村へ提出しました。残念ながら、実際の整備計画に記載されたものは「ホテルの里づくり」の1プランでした。しかし、桜の里づくりに取り組む人たちが、自分のホームページで大峰山を紹介する高友紀さん、小学校の総合学習の講師となるおじいさんなど、ワークショップに参加した人たちが、自分たちの住む地域の素晴らしさを知り、もっと良くしていこうという気持ちでつながり、自らの手で地域を良くしていこうという活動が生まれました。

建設課では、このワークショップ後に村内のある地区で、それまでの行政主導型をやめ、住民参加による「農村公園づくり」に取り組む、昨年度に竣工を迎えました。公園の維持や管理は、地域の民たちが自主的に管理しています。



ワークショップの懇話会を、大峰山で行いました。残念ながら、雨天のため豪華な昼食ははずしてしまいましたが、みんなの心は快晴だったはず...

公民館では、現在、ワークショップを通して知り合った人たちと一緒に、地域の自然や文化・伝統を学ぶ体験活動を子どもたちに提供しています。

●おわりに

市町村合併を前に地域を知る、地域の宝を発見する、そしてそれをどう活かしていくかというプログラムで進めたワークショップでしたが、参加された皆さんが立場はそれぞれ違うものの、一生懸命にこの地域のことを考えていることを実感しました。そして何よりも自分自身がこの地域の文化、自然、文化の素晴らしさを見出し、また学習することができました。

公民館は、住民の学びの場であるとともに、出会いの場、つながりの場です。そして公民館での学びの活かし方は、地域への還元であり、まさに地域づくりの場と言えるのではないのでしょうか。これからも、学びの主体である住民の主体的、創造的な学習活動を奨励し、公民館が地域の宝ものだとされるような取り組みを進めていきたいと考えています。



みんなで創った地域の未来国

クラブの今昔

レクリエーションクラブ

「しん」

私たちのサークルは、今から二十年前に中央公民館で開かれたレクリエーション教室が始まりです。当時は、レクリエーションと言っても「何だろう」という時代でした。

しかし、いざ参加してみると、その範囲は幅広く、他人も自分も楽しめるということに気づき、段々と深入りをしていきました。

現在は、男性九名・女性十六名、計二十五名で中央公民館を本拠地に活動中です。内



容も、踊り・レクダンス・フォークダンス・ゲーム・工作と多彩です。

各種レク協会にも入会しており、企業や他のクラブの行事にも参画するなど、公民館内だけにとどまらず幅広く活動しています。

新潟市中央公民館

土田 耕藏 記



楽しい文字の心も楽しむ

筆で文字を楽しむ教室

筆で文字を書くというところ「書道」とか「書初め」というイメージが強いですが、この教室ではまじめな文字はダメ。きっち



りはダメ。

下手でいい、ふまじめがいい。上手な文字は感心するけど見ていて肩がこる。下手な文字は見る人を和やかにする、楽しい気持ちにさせる。という講師の考え方のもと、受講者はいかに楽しく面白い文字を書くか勉強しています。

自分の気持ちを文字の形にしてあらわし、自分も楽しく見てくれる人も楽しんでもらえるように、毎月二回、文化センターで下手な文字を一所懸命書いています。

栃尾市公民館

五十嵐 勝榮 記

【文武兼ね備えてこそ無敵】これは、公民館勤務6年目となる川上さんの座右の銘です。そして川上さんは、その言葉どおりに日々努力と経験を積み重ね、数々の実績と人望を手に行っている、我が公民館が誇る電車男…いやいや看板男です。

川上さんは、月岡温泉生まれ、月岡温泉育ち。毎日温泉の蒸気を浴びているので、お肌はツルンツルン。そんな敏感かつ繊細なお肌の持ち主です

新潟市豊浦地区公民館

主事 川上 隆幸さん



素顔拝見



出雲崎町教育委員会教育課

主事 松永 裕さん

姿が印象的である。

そんな彼は、ストレス解消のために暇な休日には普段の仕事を忘れてドライブに出掛けるとか、早目に二人で…?

これからも健康に留意し、町民の参加しやすい企画をたてるよう仕事に頑張ってください。

(出雲崎町教育委員会教育課長 関川政敏 記)

が、もちろん心も優しく、職場での対応はキメ細やかで、その優しさとナイススマイルにみんな癒されています。

一方、野球が大好きな川上さん。熱心に取り組んでいる姿はとても輝いています。もしかして、子どもが9人生まれたら川上球団を結成する夢をお持ちなのでは!? ☆がんばろうカワカミ☆

(新潟市豊浦地区公民館 主事 阿部瞬一 記)

恵贈資料紹介

ふるさと関屋 (上)

地域学「ふるさと関屋」上・下セットで刊行されたのですが、その装丁、紙質のすばらしさにびっくりいたしました。

今回、内容をゆっくり読ませていただきましたが、参考文献及び資料根拠が実にしっかりして、その上説得力十分で、久しぶりに価値ある冊子に接することの充実感が一杯です。

巻頭での佐野憲昭館長の言葉



「もっと知りたいふるさと関屋」から始まる、足掛け10年にわたる「ふるさと関屋」の実践記録集だそうで、内容の深さも十分納得です。

内容は、一章関屋の生い立ち、二章関屋に係

にありますように、平成6年「もっと知りたいふるさと関屋」から始まる、足掛け10年にわたる「ふるさと関屋」の実践記録集だそうで、内容の深さも十分納得です。

内容は、一章関屋の生い立ち、二章関屋に係

る古文書、三章関屋の地名考、四章関屋村と斎藤家と神社・仏閣、五章 戊辰戦争から構成されており、下巻につきましては、次号で紹介いたします。

A4判 66頁

問合せ、連絡先
新潟市関屋地区公民館
電話〇二五―二六六―四九三九
FAX

Net work ネットワーク

平成17年度 中越地区公民館職員研修会



地域住民が求める、地区公民館や分館の機能と職員の役割について

期 日：平成17年10月4日(火)
会 場：栃尾市産業交流センター (おりなす)

78名参加

次第

開会式 (会場：てまりホール)
開会挨拶 中越地区公民館連絡協議会副会長 大久保正毅 様
祝 辞 中越教育事務所社会教育課課長 小林 民弥 様
新潟県公民館連合会事務局長 鈴木 友夫 様
歓迎の挨拶 栃尾市教育委員会教育長 諏佐 實 様

講演 (会場：てまりホール)
演題 『地域住民が求める、地区公民館や分館の機能と職員の役割について』
講師 新潟市理蔵文化財センター所長 手島 勇平 様
質疑

昼食 (会場：会議室2及び3)

分科会

第1分科会 (会場：①班 会議室3、②班 会議室2)
テーマ

『地域住民が求める公民館事業とは～ニーズの把握・企画・評価の方法～』

第2分科会 (会場：会議室1)
テーマ

『地域の人たち (こどもから高齢者まで) の居場所、拠り所としての公民館の施設サービス』

第3分科会 (会場：会議室5)
テーマ

『地域に根ざした公民館職員活動を考える』

第4分科会 (会場：てまりホール)
テーマ

『地区館・分館と中央館の連携、分担、補完について』

全体会 (会場：てまりホール)
各分科会の協議内容発表・質疑

閉会式 (会場：てまりホール)
閉会挨拶 栃 尾 市 公 民 館 長 矢 沢 栄 一

event information

平成17年12月の催物ご案内

平成17年12月の催物ご案内

プラネタリウムクリスマスコンサート

満天の星空のもとで、エレクトーンとフルートの生演奏を聞きながら、天体ビデオ、スライド投影等をお楽しみください。

日時：12月23日(金・祝) ①13:30～ ②16:00～(各回45分)
各回観覧料210円(大人)観覧料100円(小・中学生)100円(幼児)です。
※3歳以下の乳幼児は保護者同伴です。
※コンサートのため、プラネタリウムの観覧料は1015～のみです。

かすくりの世界

日時：12月11日(日)・25日(日)
①13:00～ ②15:00～
会 場：科 学 館
茶番人形・脱走人形などの
かすくりの世界をお楽しみください。

《巡回展》

「驚異! 心の働きにせまる不思議な世界」
開催：12月3日(土)～12月25日(日)
この展、東沢大学物産館で開催された「驚異展」が出版にやってきました。驚異の不思議な世界をぜひ、ご堪能ください。

日	時	中学生 大人	幼児、小学生 7歳以下の方の観覧料
入 場 料	100円	550円	70円(7歳以下)観覧料100円(幼児)
入 場 料	200円	750円	100円(7歳以下)観覧料100円(幼児)

※14歳以下の子は保護者同伴です。
※15歳以上の方は大人料金です。
※16歳以上の方は大人料金です。
※17歳以上の方は大人料金です。
※18歳以上の方は大人料金です。
※19歳以上の方は大人料金です。
※20歳以上の方は大人料金です。
※21歳以上の方は大人料金です。
※22歳以上の方は大人料金です。
※23歳以上の方は大人料金です。
※24歳以上の方は大人料金です。
※25歳以上の方は大人料金です。

新潟県立自然科学館 観覧料を詳しくはこちらをご覧ください。



3月から科学館に仲間入りした『新歩』人間にちかひ歩きをするだけではない。おじぎ パンサイ ジャンケンなども上手にできるようになりました。

新潟県立自然科学館
TEL:988-888-8881 FAX:988-888-8882
新潟市 988-0111

あ と が き

◆吉報が入って参りました。平成17年度文部科学省全国優良公民館表彰に、湯沢町公民館が受賞の栄に浴することとなりました。

10月31日(月)東海大学校友会館での表彰式後、天皇・皇后両陛下下拝謁及び庭内拝観がなされました。

詳細につきましては、次号で紹介させていただきます。(鈴木 記)

10月号 7面素顔拝見
お名前訂正 斎藤康弘さんから
泰弘さんへ